第10回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和５年５月２日（火）
18時～19時30分
会場：長野県伊那合同庁舎　講堂

次 第

１ 開　会

２ 挨　拶

３ 報告事項
（１）第９回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ　【資料１、２】
（２）校地検討会議について

４ 会議事項
（１）育てる生徒像、目指す学校像について　【資料３、４】
（２）懇話会でのご意見に対する検討の方向性について　【　資料５　】
（３）今後のスケジュールについて　【　資料６　】

５ その他
次回（第11回）の予定
【日時】　令和５年５月30日（火）　18：00～19：30
【会場】　長野県伊那合同庁舎　講堂
【内容】　新校の学びのイメージについての意見交換

６ 閉　会

上伊那総合技術新校「新校再編実施計画懇話会」構成員

令和５年５月からの構成員

	区分	氏名	所属等	役職等
1	自治体	山田　勝己	辰野町	副町長
2		浦野　邦衛	箕輪町	副町長
3		田中　俊彦	南箕輪村	副村長
4		小平　　操	駒ヶ根市	副市長
5		笠原　千俊	伊那市教育委員会	教育長
6		加藤　孝志	宮田村教育委員会	教育長
7		○唐澤　直樹	上伊那広域連合	事務局長
8	産業界	松井夕起子	辰野町商工会	代表
9		漆戸　豊徳	箕輪町商工会	代表
10		堀井　一政	南箕輪村商工会	工業部会長
11		山下　政隆	駒ヶ根商工会議所	副会頭
12		向山　賢悟	伊那商工会議所	副会頭
13	同窓会	篠平　良平	辰野高等学校同窓会	会長
14		小河　節郎	箕輪進修高等学校同窓会	会長
15		清水　　満	上伊那農業高等学校同窓会	会長
16		鈴木　正志	駒ケ根工業高等学校同窓会	会長
17	ＰＴＡ	○矢澤　弥彦	辰野高等学校ＰＴＡ	副会長
18		○城取　　誠	箕輪進修高等学校ＰＴＡ	会長
19		○大澤あまな	上伊那農業高等学校ＰＴＡ	副会長
20		○宮下　陽子	駒ケ根工業高等学校ＰＴＡ	副会長
21	学校関係者	○有賀　泰司	上伊那中学校長会（東部中学校長）	副会長
22		○島尻理惠子	上伊那小学校長会（中沢小学校長）	副会長
23		○原　　　潤	伊那養護学校	校長
24	学識経験者	松島　憲一	国立大学法人信州大学農学部	教授
25		武久　泰夫	南信工科短期大学校	副校長
26	地域	○布山　　澄	上伊那地域振興局	局長
27	統合対象校関係者	○茶城　啓二	辰野高等学校	校長
28		小林　敏明	箕輪進修高等学校	校長
29		平沢　　一	上伊那農業高等学校	校長
30		福澤　竜彦	駒ケ根工業高等学校	校長
31		伊藤　七海	辰野高等学校	生徒会長
32		松山　吹希	箕輪進修高等学校	生徒会副会長
33		飯塚　咲絵	上伊那農業高等学校	生徒会長
34		平澤　晃洋	駒ケ根工業高等学校	生徒会長

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
辰野	○齋藤　美幸（教頭）　○藤森　和浩　丸山　末広
箕輪進修	岩田今朝宣（教頭）　田中　俊生
上伊那農業	○塩原　慎一（教頭）　境　　久雄　山下　昌秀　若林　誠司
駒ケ根工業	○藤田　晶子（教頭）　竹内　浩一　甕　　力　和田　和代

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	○中島　秀明	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	田中　　聡	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	○原　多恵子	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

資料１

第9回　上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日時･会場	令和５年（2023年）２月24日　18時00分～19時30分　長野県伊那合同庁舎
出欠席	懇話会構成員：出席者20名、欠席者12名（山田勝美、浦野邦衛、松井夕起子、向山賢悟、小河節郎 根橋健治、竹村浩一郎、小口直喜、伊藤七海、松山吹希、飯塚咲絵、平澤晃洋） 事務局：県教委４名（山岸主幹指導主事、田中主任指導主事、本山主任指導主事） 辰野高校３名、箕輪進修高校２名、上伊那農業高校４名、駒ヶ根工業高校３名
傍聴者	傍聴７名、報道５社（オンライン参加者含む）
会議事項	（１）第８回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ （２）学校像のイメージについて （３）意見交換
当日資料	第９回懇話会（資料）、意見交換シート

構成員から出された主な質問･意見

（１）第８回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ（事務局より説明）
〇前回の懇話会の意見交換の際に出された主な意見のまとめと、これまでの懇話会で出された意見のまとめ。
（２）学校像のイメージについて（事務局より説明）
〇前回の懇話会で出された意見を受けて、学校のイメージ（たたき台）について修正した箇所の説明。
〇本日の意見交換でお願いしたいこととして、前回時間の都合であまり意見なかった「新校での学びについて」、特にアイデアを出していただきたいことを伝える。
（３）意見交換（学校像のイメージについて、たたき台をもとにグループ内で意見交換。その後発表）
〇育てる生徒像・目指す学校像について
・内容については、変更案でおおよそ良いのではないか。
・「well-being」や「イノベーション」といった言葉については、わかりやすい言葉（日本語）に変えたらどうか。
・生徒像と学校像をリンクさせ、中学生やその保護者がわかりやすい表現に。
〇新校での学び（設置学科）について
・新学科については、中学生にとっても魅力的なのではないか。
・新学科の内容については具体的な例は意見しにくい。なかなかイメージがわかない。
・地域の将来を担う高校生が「楽しい」と思える学びができる学科を。
・例えば、各市町村の「地域振興課」の活動内容を実践するような学びはどうか。
・建築・土木に関する学びができるコースは、上伊那地域にないため、ぜひ設置してほしい。
・基盤技術があっての先端技術であるので、専門分野の基礎・基本を大切にした学びを。
〇学びを支えるために考えられる取り組み等について
・専門学科のくくりは、自分自身が深めたい学習分野を入学後に知るためにも必要ではないか。
・高校入学時では、目標があって入学する生徒もいれば明確な目標を持てずに入学する生徒も少なからずいる。どちらの生徒も受け入れられる仕組みを。
・国際交流については、文化や語学の学習ではなく他国の専門分野を学べるような交流を。
・産学官連携を取り入れた活動を具体的に示すことによって、より協力体制が取れるのではないか。

今後の検討事項

◎新校の学びのイメージの素案を示し、意見交換していく。

その他

【次回】　日時：令和５年（2022年）４月中下旬を予定
場所：未定
内容：新校の学びのイメージについて（まとめ）

資料２

第９回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会（R５．２．24）グループ討議記録
（意見交換シート記述も含む）

○育てる生徒像についての意見　　　　　　　＊目指す学校像についての意見
・新校での学び（設置学科）についての意見　◇学びを支えるために考えられる取り組みへの意見

グループで出た意見	
A・E	○伊那谷の魅力を世界へ伝えられる生徒像 ○地域の求める人材（職種）に合った人材の育成 ＊個性を出して上伊那の資源を活かす ・「起業に係る、実践なる取り組み」を中心に考える、キーポイントは”起業”か ・人手不足を見すえて地域振興を ・高校生の目線で、高校生が楽しんで学べる学校になるといい ・地元に残る生徒はどのような仕事をしているのか ・「融合」にピンとこない面がある ・インバウンド、外国人を意識した学び ・建築や繊維・観光など、地域に少ない産業 ・各市町村の「地域振興課」の活動内容を実践するような学びはどうか ◇学校に通えなくなりそうな生徒のフォローできる体制。 ◇基礎的な学習は大切 ◇地域を学ぶためには、地域コーディネーター、知恵を出す方が必要 ◇自分が学んだ、考えた、探究した事を他人（小・中学生棟）へ伝える事でさらに学習が深まる ◇どの科に所属していても、自分で取りたい資格を取れる環境 ◇登校時間を考えてほしい ◇専門科目を学びながら、他の科目を学ぶのは現実的ではないのでは（広く浅くとなる可能性） ◇国際交流・海外の技術
B	○クリエイトという表現は少々気になる ＊専門性を活かす中　専門の学習をした後　協働する(出来る)学校 ＊「協働」という言葉が表すように、他の学科の生徒・友人・先生・地域の人たちからのサポートを受けながら、一人ではなしえなかった成果まで達成できるイメージを持てるビジョンと感じた ＊協働による地域社会の創造…共に働き共に行動をする。対等な立場で物事を進める。 ＊理解しにくい表現はかみ砕いた表現に ＊「生き生き」はひらがなで表記した方がよいのでは。 ・農工商の専門の学びの上での連携が生まれる ・地域の協力が得られての学び ・新学科⇒融合の学びが何になるか答えがない ◇大学、企業の連携と企業の連携を取り持つコーディネータの設置は大切 ◇専門高校として海外の技術や産業の取り組みを直に学べる国際留学制度が単位として認められるといい。 ◇国際的な感覚を学べる（語学・現地研修） ◇他地域（県内外問わず）の同様な学校との交流 ◇技術情報の連携
C	○まだ上伊那という表現や難しいカタカナが多い気がする ○育てる生徒像が一つ削られたが、幅広い視野は今後大切な部分であるので、「幅広い視野と技術的専門性を持ち合わせ・・」とまとめた表現にしたらどうか ○育てる生徒像と目指す学校像のリンクや主語が何なのか再度事務局で確認作業をお願いしたい ○育てる生徒像だけ読んでも「総合技術新校」の学校像の特徴があまりでていない ○大人のロジックの意図を感じるので、中学生やその保護者が学校像をイメージしやすくなる表現の検討をお願いしたい ＊地域（上伊那）だけでなく、世界を意識した生徒像の言葉があると良い ＊「個別最適な学び」「共働的な学び」「well-being」という言葉は新学習指導要領に基づいたものであると思うが、先生方は理解できても一般的に馴染みがないのではないか ＊先端技術が全てではなく、基盤技術も大切であり、それで世界と渡り合っている企業が上伊那には多くある ・伊那に「伊那に生きる、ここに暮らし続ける」というビジョンがあるが、地域に生活することで地域課題の解決や活性化に取り組む学びと同時に、地元に居ながら世界的規模で活躍できるツールやスキルなどを身に付けることのできる学びができれば理想と言える ・個人の興味関心によってその比重が異なるが、グローバルとローカルを同時に学べる学科があれば中学生にアピールできる。（例：上農ＧＬコース） ・融合した学びであってもどこに軸足を置くかが大切である。 ◇ＪＩＣＡやＪＯＣＡなどの学びを通して、地域から世界へ、世界から地域へ、そして再び世界へといった国際的な視点を身に付けることは今後大切であり、中学生の興味を引くと思う ◇技術新校ができる頃（６．７年後？）にはスマート農業などは時代遅れになる。不易流行ではないが、いつまでも変化しない本質的なものを学びの軸に構築していくべきである

D	○どちらもさしさわりなく良くできている。ただどこの学校にでも通用する。技術新校としてのイメージを（だけを）もっといれたい ○地域の発展のための人材育成はもちろん、地域のみで無く、広く活躍できる人材育成 ○良いと思います。人間性を高められる学校であってほしいと思います。…“新校”に誇りを持てる、校風を気付きあげられれば ○クラブ活動にも力を入れてほしい ○「みらいをデザイン」については、広がりがあり良い ○「みらいをデザイン」できる生徒がわかりづらい。「みらい」は、生徒にとって直近（３年後、５年後）、自分のデザイン？、何のデザインか。「みらい」とは具体的に何をさしているのか ○「長野県」を入れたい。長野県で活躍してほしい。長野県のアンテナショップには長野県民の集客があり、思い入れが強い ＊地域、産学官協働の学習・研究する場面があっても良い ＊きれいにまとまっているが、具体性に欠ける。上伊那独自のものが欲しい ・新学科はおもしろいが現実的に実施できるか。夢を語ることは良いが、現実的に考えることは必要 ・農業経営において、農業技術はもちろん必要であるが、商業簿記・経営、工業コンピュータ操作・溶接・機械修理等も必要。建設・土木関係 ・まとめのような方向でよいとは思いますが、現実的に数年後には生徒数がガクッと減少していきます ・農・工・商をブレンドした学科、もしくはICTについて深く学べる科があっても良いのでは ・学科の枠は新校を示しているが、他の項目は文科省からのイメージ。この案でも良いが、一文で表現することもありか ◇最先端技術も大事だが、基礎的技術をしっかり学ぶのも大事 ◇地元企業、地域人材にも目を向けた学びを行いたい ◇国際交流、留学できる制度はよい
F	○「自分自身のみらいと地域をデザイン」できるひと、とし、文末の「生徒」を「ひと」とするのはどうか。みらいの意味を明確にし、生徒を「ひと」とすることで、人間力を強調できるのでは ＊「クリエイトできる」を「創造する」にするのはどうか。また、イノベーションはわかりにくい表現なので、削除でどうか。したがって、「…農・工・商の連携による新しい価値の創生、地域課題の解決…」とするのはどうか。新校のイメージを最も理解してもらいたいのは高校を選ぶ中学生やその保護者、中学校の進路指導に携わる先生方であることから、育てる生徒像と目指す学校像をリンクさせ、ストレートで分かりやすい文言にしたほうがいい ◇県外からの募集も視野に入れた受け入れ態勢の検討。例えば寮や借家、里親募集等(市町村との連携が必要か) ◇専門学科のくくりは、自分自身が深めたい学習分野を入学後に知るためにも必要ではないか。 ◇高校入学時では、目標があって入学する生徒もいれば明確な目標を持てずに入学する生徒も少なからずいる。どちらの生徒も受け入れられる仕組みを ◇信州大学農学部と南信工科短期大学校との連携は不可欠
G	○『幅広い視野で専門性を習得する・・・』を外してよいのか。その外した内容に代わり得る部分が明確ではない。 ○きれいなことが書いてある。あくまで理想像なので、これぐらい綺麗なことが並んでよいのかなとは思う。目指す学校像であるので、宜しいのではないか ○『上伊那』ではなく、「みらい」に変わったのは良いと思う。平面でなく、生徒の人生に視点が向いている ＊妥当な案ではないかと一定の評価はできるが、横文字を極力減らすべきと考える。『Well being』のような用語・表現については、分かりにくい。言葉の説明が不足しており、多くの皆さんに示していくのであれば、このような言葉・用語をもっと浸透するような事前な対応が必要ではないか ・基本科目をきちんと用意して、農・工・商の連携科目を用意し、選択できるようにするべきである ・上伊那に必要と考える（この地域で不足している専門分野）土木科に関する専門科目を用意する ・コース制の導入〔農・商・工、以外の専門内容・科を導入する〕 ◇農・工・商の複数の科目の研究テーマによる学び ◇農・工・商それぞれに副教材費・検定料・実習服など費用がかかる。さらにタブレットなどもかかる。保護者の負担軽減についても考慮してもらいたい ◇「個別最適な学び」を実現しようとするのであれば、その最適な学びに適切に対応する『教員の確保』が必要・必須ではないか。学びを支える取り組みの例からは、外部との連携に重きを置いているように考えるが、県教委が正規で教員を確保する姿勢を見せてほしい ◇制限・制約なくご意見をいただきたいとのことで意見を言ってきたが、今回のたたき台の内容から、ある程度制限があり、しぼられてきていると感じる。どのような制限があるか示した上で、議論を進めてほしい。

資料３

上伊那総合技術新校の学校像のイメージ

育てる生徒像

〇専門性と人間力・社会性を持ち、「上伊那をデザイン」できる生徒
〇主体的に行動でき、周囲の人々との協働を通して、学び続ける生徒
〇幅広い視野や、多様な価値観を持つ、未来志向の生徒
〇上伊那から学び、上伊那を元気にすることができる生徒

変更

育てる生徒像

〇専門性と人間力・社会性を持ち、「みらいをデザイン」できる生徒
〇主体的に行動でき、周囲の人々との協働を通して、学び続ける生徒
~~〇幅広い視野や、多様な価値観を持つ、未来志向の生徒~~
〇上伊那で学び、地域・社会を元気にすることができる生徒

※網掛け部分は、第８回懇話会（1/24）資料からの変更点

目指す学校像

〇自分自身の将来と地域・社会の未来をクリエイトできる学校
〇地域の力を活かし、先端技術に触れ、個別最適な学び・協働的な学びを通して成長できる学校
〇専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農・工・商の連携による社会のイノベーションに貢献できる人を育てる学校
〇多様な生徒が生き生きと生活でき、個人や社会のwell-beingを実現できる学校

変更

目指す学校像

〇自分自身の将来と地域・社会のみらいをクリエイトできる学校
〇上伊那の資源を活かし、先端技術に触れ、個別最適な学び・協働的な学びを通して成長できる学校
〇専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農･工･商の連携による社会のイノベーションや新しい価値の創生、地域課題の解決に貢献できる人を育てる学校
〇多様な生徒が生き生きと生活でき、個人や社会のwell-beingを実現できる学校

※網掛け部分は、第８回懇話会（1/24）資料からの変更点

資料３

上伊那総合技術新校の学校像のイメージ

新校での学び（設置学科等）

専門性の深化と学科連携による汎用性の拡充　地域課題を探究し地域に貢献する学び

◇農業科
・野菜、果樹、草花、水稲などの生産物、動物、食品、里山環境を教材とした、栽培、飼育、食、環境、地域活性化についての学び。
・実習や実験、地域での実践的な活動や交流活動を取り入れた探究学習。

◇工業科
・工業系の基礎的な知識と技術を習得し、「ものづくり」を中心とした実践的な学びを大切にしていく。機械系の加工・溶接・鋳造、電気系の電気エネギー・電子回路・マイコン制御、情報技術系のプログラミング・ネットワーク技術・AI活用等

◇商業科
・ビジネスの知識と技能に基づき、学校内外での実践的な学習や探究学習を通じて、ビジネスの推進能力と新しい価値を生み出す創造力を身に付ける。
・ビジネスの視点と創造力で、地域の発展や課題解決に取り組む学び。

◇新学科（３つの学科を結節するDXを活用し、農工商を融合した学び）
・農・工・商について探究的・横断的に学び、新しい価値の創生と地域課題の解決に繋がる研究。起業に係る実践的な取り組み。
・ビッグデータの分析・活用、IoTや仮想空間（メタバース等）を利活用する学び

学びを支えるために考えられる取り組み等

□他校の学修の単位互換を含む、新たな単位認定（上伊那５校との連携等）
□単位制　□くくり募集　□コース制　□デュアルシステム　□長期インターンシップ
□模擬会社の運営　□ミックスホームルーム
□国際交流（JICA、オンラインで海外の高校との交流等）
□幼保小中（異年齢）や養護学校（分教室等）との交流学習（探究学習の支援等）
□上伊那８市町村・上伊那広域連合との連携
□信州大学・南信工科短期大学校等との連携
□地域連携コーディネータの設置
□地元企業と連携した最先端技術（スマート農業等）、最先端機械を用いた実習・探究

※網掛け部分は、第８回懇話会（1/24）から追加したアイディア

資料4

上伊那総合技術新校　育てる生徒像・目指す学校像について

修正案

育てる生徒像	目指す学校像
○専門性・社会性や人間力を育み、地域や自分自身のみらいをデザインできるひと ○多様な人々との協働を通して、主体的に行動し、学び続けることができるひと ○幅広い視野や、多様な価値観を持ち、学びを活かして社会に貢献できるひと ○上伊那で学び、地域・社会を元気にすることができるひと	●生徒が学んだことを活かし、自分自身の将来と地域・社会のみらいを創造できる学校 ●上伊那の資源を学びや体験に活かし、協働的な学び、個別最適な学びを通して生徒が成長できる学校 ●学科の枠を越えた農・工・商の連携により新たな価値観の創出し、地域・社会に貢献できる学校 ●多様な生徒が「いきいき」と生活し、個人や社会の「しあわせ」を実現できる学校

＜参考＞

第９回上伊那総合技術新校再編実施計画懇話会でお示しした「育てる生徒像・目指す学校像」

＜育てる生徒像＞

○専門性と人間力・社会性を持ち、「みらいをデザイン」できる生徒

○主体的に行動でき、周囲の人々との協働を通して、学び続ける生徒

○上伊那で学び、地域・社会を元気にすることができる生徒

＜目指す学校像＞

○自分自身の将来と地域・社会の未来をクリエイトできる学校

○地域の力を活かし、先端技術に触れ、個別最適な学び・協働的な学びを通して成長できる学校

○専門性を磨くとともに、学科の枠を越えた農・工・商の連携による社会のイノベーションに貢献できる人を育てる学校

○多様な生徒が生き生きと生活でき、個人や社会のwell-beingを実現できる学校

資料５

上伊那総合技術新校　懇話会でのご意見に対する検討の方向性について

	これまでの懇話会での意見	あり方・方向性
目指す学校像・	○自分の興味関心を深め、好きを探究することができる学校 ○小・中学校での探究を引き続き取り組める学校	◇「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求できる探究活動の実践
	○障がいを持つ方も含めた、多様な人が来たくなる、来やすい学校 ○ジェンダーレスの学校	◇多様性を認め、学校関係者の well-being（幸せな状態）を実現
	○地域に根付き、社会で活躍する人を育成する学校	◇地域は上伊那に限定するのでなく、地元の発展を担う人も含め、広い地域で活躍できる人を育成
	○農・工・商の連携により、化学反応が起こる学校	◇学科の枠を越えた、農・工・商の学びの展開
	○人間性（協調性、積極性）を高めることができる学校	◇他者との協働を積極的に展開
	○体験型の学びを実践する学校	◇学校内外で学ぶ仕組みを構築
	○育てる生徒像と目指す学校像のリンクや主語を確認してほしい ○カタカナやわかりにくい表現を少なくする ○みらいをデザイン、みらいとはなにか	◇中学生やその保護者にわかるような表現にする ◇将来をデザインできる生徒をイメージしている ◇自らの人生と今後さらに急速に変化する社会を想定
育てる生徒像	○社会性を持つ生徒の育成 ○他者と協働できる生徒の育成 ○周囲の人々と協力しながら社会を創っていこうとする生徒の育成 ○主体的に行動でき、コミュニケーション力や表現力を持つ生徒の育成 ○周囲の人々と協力しながら社会を創っていこうとする生徒の育成 ○リーダーとして活躍できる生徒の育成	◇農・工・商・情報の活用等の学びや特別活動を通じて育てる
	○専門分野の枠を越えた職業能力を持った生徒の育成	◇農・工・商・情報の融合の学びで実現
	○データ活用ができる生徒の育成	◇情報技術はすべての生徒が身に付けられるようにするまた、特化して学べるようカリキュラムの工夫を検討
	○幅広い視野を持った生徒の育成	◇学科の専門性にとらわれない学びの仕組みの研究
	○専門的・基本的な知識・技能を身に付けた生徒の育成	◇基礎的な学び（コア）とより専門性を高めたり、幅広い技術を身に付ける学び（オプション）を用意
	○自己肯定感を高められる生徒の育成 ○人間性の高い生徒の育成	◇農・工・商の学びや特別活動を通じて育てる ◇知識偏重でなく、体験から学ぶことができる機会を準備
	○起業できる生徒の育成	◇起業教育（アントレプレナー教育）の展開を検討
	○育てる生徒像を読んでも、「総合技術新校」の学校像の特長がない	◇学校の外部環境や内部環境の客観的特長や事実の強み、それらを活用、発揮した活動によって生徒への教育成果が伝わるよう検討

資料５

	これまでの懇話会での意見	あり方・方向性
新校での学び（設置学科）等	○総合技術学科（仮称）のような、ひとまとめの学科	◇総合技術高校では、専門性を担保するために、農業科、工業科、商業科の設置を構想している
	○情報関連の科目がトレンド ○情報系学科の設置	◇すべての生徒が情報技術を身に付けられるカリキュラムを工夫していく ◇工業科に、情報技術系の学びを設置けることを検討
	○土木系・建築系の学びの設置	◇学びの中に位置付けることを検討
	○農・工・商をブレンドした学科	◇農工商、共通な学びを検討
	○３学科融合がピンとこない ○融合した学びであっても、どこに軸足を置くかが大切 ○新学科⇒融合の学びが何になるか答えがない	◇学校とともに、今後さらに検討していく
	○電気系を電子系と電力系の２つに分ける ○機械、電気、情報、蓄電池や半導体関連を学ぶことができる学科	◇コースや科目の設置を検討
	○起業家学科、アントレプレナー学科の導入	◇コースや科目の設置を検討
	○各々の学科がつながり、連携をとる横断的な学びが必要	◇学科間の連携や融合は、総合技術高校のコンセプトの根幹
	○体験的学習の充実した学び	◇どの学科にも体験を取り入れた学びを展開デュアルシステム等の導入を検討
	○アパレルデザイン、ゲーム・音楽などのデザイン、語学力をつけるような学び	◇地域との連携や外部人材の活用も視野に入れ、検討
	○地域に少ない産業を学べる学科等　土木、建築、繊維、観光関係	
学びを支えるために考えられる取組	○入学後でも、学科を決められる ○科を越えたくくり募集で、入ってから科を選べる仕組み ○個々の希望や興味・関心などによって、様々な授業を選択できるようにする ○１年次は普通科の授業を充実させ、キャリア教育的な時間（農業・工業商業を体験的に学べる）を組込みながら、１年次の後半から、生徒の興味・関心がある学科等の選択を促す	◇専門性の担保と入学する生徒の実態を考慮しつつ検討
	○１、２年生に体験的学習を多く盛り込めるカリキュラムがよい	◇すべての学科にも体験を取り入れた学びの展開を検討
	○コース学習の中で探究的な学びができる教育システムの検討	◇探究的な学びは新校でも重視
	○デュアルシステム等、地元企業と連携した取組み ○スマート農業や自動化に向けた社会のために地域の方と取り組みたい ○地域の企業、商店、農家で実習学習する中で協働して課題解決 ○地域企業、自治体等と連携した地域課題の解決 ○信州大学、南信工科短期大学校などの学術機関との連携 ○地域企業、自治体等と連携した地域課題の解決 ○深い学びのために、地域の企業が入り込む仕組み ○上伊那地域全体での交流に期待 ○今の延長線上で、さらに地域の方々にかかわりを持ってほしい ○地元企業、地域人材にも目を向けた学び	◇専門教育には、地域との連携が必須「共学共創プラットフォーム」を構築し、連携を図る方向

資料５

	これまでの懇話会での意見	あり方・方向性
学びを支えるために考えられる取組	○３科連携した課題研究の実施 ○専門科 25 単位（最低）の上で、連携を図る農・工でものづくり、商で売る ○異分野との交流 ○農工商の科目に触れることは経験を増やすという意味では有意義だと思うが、反面、中途半端になるのではないかという危惧がある	◇総合技術高校では、農、工、商のそれぞれを極める生徒も、幅広く学ぶ生徒もいてよいと考えており、個々の生徒の希望がかなう仕組みの検討 ◇専門性の追求は必須
	○どの科に所属していても、取りたい資格が取れる環境	◇総合技術高校のメリットとして、積極的な環境整備を検討
	○地域とつながるコーディネータの設置が不可欠	◇県教委でもモデル校を設け検討 ◇自治体等とも相談していきたい
	○人気の科は希望者が多いが、人数調整するのでなくできるだけ望んだ学びを保障してほしい	◇現行制度下で可能な方策を検討
	○談話スペースや話し合える場がほしい	◇施設整備については、議会同意後に検討開始改めて意見交換する
	○学びを考えていくために、どのような制限があるか	◇専門学科は、25 単位以上の専門科目の修得が必要 ◇上伊那の各校の特色も踏まえた学びの構築が必要
	○制服に対する意識が中高生を中心に大人が思っている以上に高い ○登校時間を考えてほしい ○クラブ活動にも力を入れてほしい	◇学校運営や生徒会活動、部活動についても順次検討
	○学校に通えなくなりそうな生徒のフォローできる体制	◇生徒の心のケアやインクルーシブ教育等を考慮した学校運営を検討
	○「個別最適な学び」を実現するための教員の確保が必要	◇教員数の確保も必要
	○海外との交流をもっと盛んにしてほしい ○国際交流、留学制度はよい ○言葉の壁（英語等）を越えて、自由に外国とコミュニケーションが取れる環境	
	○県外からの募集も視野に入れた受け入れ態勢（寮など）の検討	
	○一度外に出ても帰ってこられる環境・地域の魅力づくり ○Ｕターン、残る人を育てる観点 ○地域社会が生徒を縛り付け過ぎない環境を用意してほしい	

資料６

「上伊那総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会」のスケジュール（予定）について

高校再編推進室

年度	月・日	懇話会 ・校地検討会議	内　容
令和３年度（２０２１年）	12 月 14 日	第１回懇話会	○「県教委より説明」 ・懇話会趣旨　・新校のイメージ
	２月４日	第２回懇話会	○生徒による各校の紹介・学びについて ※　コロナウイルスの蔓延につき延期
	２月 22 日	第２回懇話会	○校地検討部会設置　承認 ○総合技術高校についての研修
令和４年度（２０２２年度）	４月 25 日	第３回懇話会	○生徒による各校の紹介・学びについて
	６月 26 日	第４回懇話会	○有識者による講演（産業教育について） ・鳴門教育大学教授　藤村　裕一先生
	８月 22 日	第５回懇話会	○アンケート調査（素案）について ・高校生、中学生、保護者、産業界対象
	９月 20 日	第６回懇話会	○アンケート調査について
	11 月 29 日	第７回懇話会	○アンケート調査の結果について ○学校像についての意見交換
	１月 24 日	第８回懇話会	○学校像のイメージ（たたき台）の意見交換
	２月 24 日	第９回懇話会	○学校像のイメージ（たたき台）の意見交換
令和５年度（２０２３年度）以降	5月2日	第 10 回懇話会	○学校像のイメージに関する意見交換
		第 11 回懇話会	○学校像のイメージ（素案）の意見交換 ○学校の規模等の意見交換
		第 12 回懇話会	○学校像のイメージ確定
		第 13 回懇話会	○再編実施基本計画に向けた懇話会の総括
		県議会で同意	
	新校開校まで随時（年３～４回程度）開催予定		
	新校開校		